

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所
事業所名 かえで保育園

第三者評価の判断基準

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	・園の保育目標を基に、年間指導計画、週日案等を細かく編成している。園の特色として「人権同和教育」を基本とした園目標を併せて掲げている。また「園のしおり」の最後に児童憲章を掲げている。人権の尊重を園運営の基底としている。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園全体が新しく開放的で明るい。ガラスが多く使用されており採光について配慮されている。温泉水を使用した床暖房となっており、温泉地ならではの特色となっている。 ・令和元年10月に全部屋にエアコンが設置された。 ・内装には木材がふんだんに利用されている。1階はりんどう組で3歳児が午睡している。2・1・0歳児は各部屋で午睡している。2階の多目的室にじゅうたん（夏場は花ござ）を敷き4・5歳児が午睡している。
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 ■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各年齢毎にまた個々の発達過程合った保育を展開し、備品や保育士の工夫がみられる。特に廊下に展示してある子どもが描いた絵には、その時の気持ちを保育士が聞き取り、吹き出しに貼ってあり、一人一人の声を大切にくみ取ろうとする努力が感じられる。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(2)	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>・手洗い、トイレ等の基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。名前を書いたシールを貼る事で自分の場所であることを意識するよう工夫している。おもちゃの道具等のかたづけにも一つずつ写真のパウチ加工されたコンテナが用意されており、とても取りやすく進んで片付ける様子がみれた。</p>
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 	<p>・部屋の中や遊戯室では子ども達が遊びを選びやすいよう表示されている。遊戯室から出てきた年長児は自発的に道具入れからコーン（円錐の表示）を持ち出し、自分たちでチームを決め「陣地鬼ごっこ」を始めていた。園庭では、水たまりで水や砂を使いレストランごっこをしたり子どもが主体的に遊びを生み出し保育士も見守りながら加わっていた。近くの観音様等への園外保育も安全を確保して実施している。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	④		<ul style="list-style-type: none"> ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 ■ 36 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>・一人一人テーブル付きの椅子に座り落ち着いた雰囲気の中で時間が流れていた。泣いている子もなく保育士の養護ができているのが見て取れる。部屋から直接出られる専用の庭もあり外遊びも充実している。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分であろうとする気持ちを尊重している。 ■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中を仲立ちをしている。 ■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 ■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1歳児は保育園の送迎時に保護者が利用しているアスファルトの駐車場の門扉を閉鎖した第2の園庭を利用しベビーカーや乳幼児用のバギー等で遊んでいた。アスファルトのため転ぶと擦り傷になることも予想されるが、スムーズ動き回ることができる利点がある。隣の東小学校から舞い落ちる落ち葉を楽しそうに拾っていた。 ・ 2歳児は野菜を使ったスタンプごっこでスタンプを制作していた。保育士が寄り添う一人一人の状況に応じ完成させていた。夕方には完成しており保護者が見られるよう展示していた。
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 ■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3歳児は園児服を着て散歩に出かけていた。園長室の前で大きな声で「先生いってきまーす」と挨拶し園長は手を止め笑顔で答えていた。 ・ 保小連絡会を年2回開催している。また学校の先生の参観もある。東小学校の1年生と5年生との交流を10月行っている。かえで保育園の子どもはほとんど東小学校に入学する予定である。 ・ 充実した体系的な「運動あそび」や「セカンドステップ」を積極的に取り組んでいる。「セカンドステップ」は人権を尊重した取り組みでもあり良い点として評価できる。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 ■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 ■ 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<p>・身体障害と知能適応障害のある子どもにそれぞれ加配の保育士が配置されている。毎年担当は変わるが保護者との連絡を密に日々の保育を行っている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	<p>⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a)	<p>■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。</p> <p>■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。</p> <p>■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。</p> <p>■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。</p> <p>■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。</p> <p>■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。</p> <p>■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。</p>	<p>・専用の部屋と共に専任の保育士が担当している。どの子ども慣れている様子がみれた。</p> <p>・土曜の午後の延長保育にはおやつが有る。</p>
			<p>⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	a)	<p>■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。</p> <p>■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。</p> <p>■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。</p> <p>■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。</p> <p>■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。</p>	<p>・園舎の2階から隣の東小学校のグラウンドに行けるようになっている。園庭が狭いこともあり、学校の校庭が利用でき、運動会、焼き芋大会等を通じて普段から交流がある。子ども達にとっても小学校がとても近い存在になっている。</p> <p>・保小連絡会を年2回開催している。また小学校の先生の参観もある。かえで保育園の子どもはほとんど東小学校に入学する予定である。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 □ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>・町からの乳幼児健診の予定表を目につきやすい場所に掲示してある。園内では毎月の健康状態を把握している。</p> <p>・子どもの体調管理、けがの処置、既往症への対応、SIDS（乳幼児突然死症候群）の情報提供等看護師の需要が高くなっている。山ノ内町では看護師の配置はないが、保育園のリスク軽減と保育士の負担の軽減に貢献できる保育士の配置を期待する。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>・健康診断や歯科検診が行われている。歯科は親子歯科検診として年長・年中・年少（職員も一緒）に給食の試食会も兼ねている。歯に良い食べ物などを紹介したり、プラーク検査、入れ歯体験などもある。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(3)	③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<p>■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</p> <p>■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</p> <p>■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</p> <p>■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</p> <p>□ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</p> <p>□ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</p>	<p>・現在強いアレルギーの子どもはいない。クラス配膳のため保育士が直接配膳している。毎月の献立表にはアレルギー児には個別に対応することを伝えている。</p> <p>・アレルギー対応について、看護師と保健師、医師からの必要な知識・情報を得て技術を習得することを期待する。</p>
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<p>■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</p> <p>■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</p> <p>■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</p> <p>■ 91 食器の材質や形などに配慮している。</p> <p>■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</p> <p>■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</p>	<p>・食事を楽しく出来る様に「あきのたべもの」として立体的な魚や野菜、果物が保育士の手作りで展示されていた。</p> <p>・廊下や玄関に食育に関する掲示がされている。またクラスだよりや毎月の献立表により旬の食材、園のリクエストメニューを掲載している。保護者を対象にした簡単野菜料理試食会も開催している。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(4)	①		<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="869 196 1653 252">■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 <li data-bbox="869 300 1653 355">■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="869 411 1653 467">■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 <li data-bbox="869 515 1653 547">■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 <li data-bbox="869 619 1653 675">■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 <li data-bbox="869 730 1653 786">■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 <li data-bbox="869 834 1653 866">■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 <li data-bbox="869 938 1653 970">■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 <li data-bbox="869 1050 1653 1106">■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 <li data-bbox="869 1161 1653 1217">□ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>・一時預かりでも給食が提供されている。時計の45分のところにシールが貼ってあり、長い針がそこを指したらおしゃべりをやめてしっかり食べるという約束が決められていた。どのクラスもしっかり食べ残食は少なかった。</p> <p>・エノキ、シメジ、りんご、ブドウ（巨峰）、地元や山ノ内産コシヒカリ（雪白舞）を献立に取り入れている。</p> <p>・地域の食文化としておはぎ（ぼたもち）やもちつきを行っている。10月11月は北信濃食文化研究会の協力により「箱膳体験」をした。</p> <p>・衛生管理マニュアルは作成されてから年月が経過し山ノ内町保育研究会給食部会で検討されている。改訂されたマニュアルに沿った衛生管理が行えるよう期待する。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>・連絡帳はなく、出席ノートが情報交換の手段となっている。要望等があれば個別に行っており、口頭で伝えたり出席ノートを用いて連絡している。1階から2階まで土間廊下になっており、保護者がクラスの前までお迎えに行き保育士と直接情報交換できるようになっている。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<p>・町の保健師から入る情報連絡をきっかけに保育士が保護者を支援する取り組みが多い。送迎時に声をかけて話をしたり、日曜保育に来てもらい相談に応じる取り組みをしている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	2	(2)	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 □ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 □ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体重測定時に子どもの体の変化を隅々まで観察している。園長室は保護者が通る玄関横にあり保護者の様子が見れるようになっている。気になる保護者には声がけをしている。 ・新入園児と昨年度途中入園した園児の家庭訪問を実施し家庭での養育の状況把握に努めている。 ・町では園だけでなく要保護児童対策協議会と情報収集や未然防止の体制を整備している。 ・虐待等権利侵害を発見した場合等について明示したマニュアルは確認できなかった。
A	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 □ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回自己評価シートを町に提出している。正規職員のみ実施し、評価項目別に24チェック項目を自己評価している。 ・正職以外の職員の自己評価は実施に至っていないため保育所全体の評価では改善の余地がある。